

(4)と(5)は所謂横材の木簡(木目に直交して文字を書く)で、いずれも貸出中の経典を検定した結果を記した木簡かと思われる。ともに経典を検定した内容を記したのち、検定の年月日を書き、その下あるいは次行以降に山田寺の上座・寺主・都維那たちが自署を加えている。このことは経典の検定に寺の三綱があつていたことを示す。

(4)の表には検定結果を記した部分とは逆方向に文字を書き、経典の貸出について記録した部分が所々にあり、その中には見せ消ちによる抹消が行なわれている箇所もある。文字を削り取った跡や削り残した文字も見られ、またそこに記された年紀にも天平勝宝六年(七五四)と宝龜七年(七七六)の開きがある。従って本木簡の表は長期にわたって表面を削りつつ使用されつづけたものと推定される。なお(4)(5)によって山田寺三綱の存在とその具体的な僧名が初めて知られた点は留意される。

9 関係文献

奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報』一〇(一九九一年)

同『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』二一(一九九一年)

山岸常人「山田寺宝蔵と大般若経経帙題籤」『日本建築学会大会学術講演梗概集(東北)』一九九一年

橋本義則「山田寺跡出土の木簡」『考古学ジャーナル』三三九 一九九一年

(橋本義則)

木簡研究 第二号

巻頭言

狩野 久

一九八八年出土の木簡

概要 平城京跡 平城京左京二条二坊十一・十四坪坪境小路跡 平城京左京二条四坊二坪 東大寺大仏殿廻廊西地区 藤原宮跡 藤原京跡 長岡宮・京跡 長岡京跡 嵯峨院跡(史跡大覚寺御所跡) 大坂城跡 東郷遺跡 吉田南遺跡 小丸遺跡 姫路城跡(武家屋敷跡) 姫路城跡(東部中濠) 玉手遺跡 袴狭遺跡 山の神遺跡 池ヶ谷遺跡 瀬名遺跡 居村B遺跡 今小路西遺跡(福祉センター用地) 中里遺跡 中江田本郷遺跡 高溝遺跡 狐塚遺跡 仙台城二の丸跡 熊野田遺跡 一乗谷朝倉氏遺跡 三小牛ハバ遺跡 能登国分寺跡 発久遺跡 草戸千軒町遺跡 尾道遺跡(GDOI地点) 紺屋町遺跡 下川津遺跡

一九七七年以前出土の木簡(一一)

出雲国庁跡

中国出土簡牘的保護研究

胡 繼高

中国出土木・竹簡の保存科学的研究(抄訳)

訳・佐川正敏

木箱と文書

小池伸彦

所謂『長屋王家木簡』の再検討

大山誠一

有韻尾字による固有名詞の表記

犬飼 隆

彙報

頒価 三八〇〇円 千四〇〇円